

## 東京での総会講演会

2023-11-20 池田良穂

去る 11 月 18 日(土)に、東京国際クルーズターミナルを会場に、2023 年度の日本クルーズ&フェリー学会総会講演会を開催しました。詳しくは、会誌 37 号でご報告しますが、速報として簡単にご紹介します。

本学会では、関東在住の会員からの強い要望もあり、ほぼ 3~4 年おきに関東での総会講演会を開催しています。今年は、2014 年の東京竹芝、2017 年の横浜みなと博物館での開催に次ぐ、関東での 3 回目の開催です。会場については、港湾局クルーズ振興室および東京都港湾局のご協力をいただきました。

学会事務局としては、筆者と中山、そして大阪公立大学の片山教授と研究室の学生 2 名が上京して準備・運営にあたりました。当初は会場とオンラインの両方での開催を考えていましたが、会場での IT 環境から、オンライン開催もするには多額の費用がかかることになること分かり、対面開催のみにせざるを得なくなりました。

前日に上京した筆者は、久しぶりに「シンフォニー」のディナークルーズを体験してみることにしました。新大阪から新幹線に乗る頃、シンフォニークルーズから携帯電話に着信があり、「強風のため出航できないので、着岸したままの食事となる」とのことで、「乗船料の 4000 円が返金になるが、キャンセルの場合は無料でキャンセルできる」とのこと。もちろんキャンセルはしませんでした。

ホテルに荷物を置いて、日の出埠頭のシンフォニーの待合所に行くと、ずいぶん、たくさんの乗客がいました。この日も「シンフォニークラシカ」と「シンフォニーモデルナ」の 2 隻共に使用することと、さすがに東京ならではの盛況ぶりです。レストランの窓からはベイブリッジと晴海・豊洲・台場等の夜景が綺麗に見えました。



シンフォニーモデルナのデッキからみた「シンフォニークラシカ」と東京の夜景

当日 9 時からの国際クルーズターミナルの開錠と共に、3 階の広いロビーでの会場づくりを始めました。100 席の椅子や受付テーブルを並べ、パソコンの設定やと巨大なサイネージとの接続などを片山先生と学生が手際よくしてくれて、赤井会長とも到着して 10 時半からは別室で理事会を開催することができました。

12 時からは総会講演会の開催です。本当は午前中から開催してゆったりとしたスケジュールでと考えていたのですが、近くに食事のできる店はなく、食事の持ち込みには保健所への届け出やチェックが必要とのことで、とて大阪からは対応ができそうにないので、参加者には昼食をとった後に 12 時までに来ていただくということとなり、

参加者にはご迷惑をかけることになりました。

12時からは赤井会長の挨拶があり、会長の司会で総会が始まりました。2022年度の事業報告、会計報告の後、2023年度の予算案の説明があり、拍手で承認されました。

12時半からは、4つのセッションからなる講演会が行われました。

■セッション1 (12:30~13:30)：クルーズ業界の今(司会:赤井伸郎)

1-1 ポストコロナのクルーズ事情について(30分) 大阪公立大学客員教授 池田良穂

1-2 訪日クルーズ客船の現状と将来(30分) 国土交通省港湾局クルーズ振興室長 清水 崇

■セッション2 (13:30~14:50)：商船三井グループの新クルーズ戦略(司会:池田良穂)

2-1 「ウェルビーイングライフ営業本部(wellbeing & Lifestyle Business HQ)戦略の方向性」

商船三井 常務執行役員(ウェルビーイングライフ営業本部長) 向井恒道

2-2 クルーズ事業の新展開 商船三井 審議役 山口直彦

2-3 長距離フェリー事業の新展開 商船三井 フェリー・関連事業部長 増子祐司

■セッション3 (15:00~16:00)：日本周辺の外国船クルーズの現状と来年への抱負(司会:赤井伸郎)

3-1 MSCクルーズ(区営業部長)

3-2 プリンセスクルーズ(市川ポートオペレーションディレクター)

3-3 シルバーシークルーズ(糸川日本・韓国支社長)

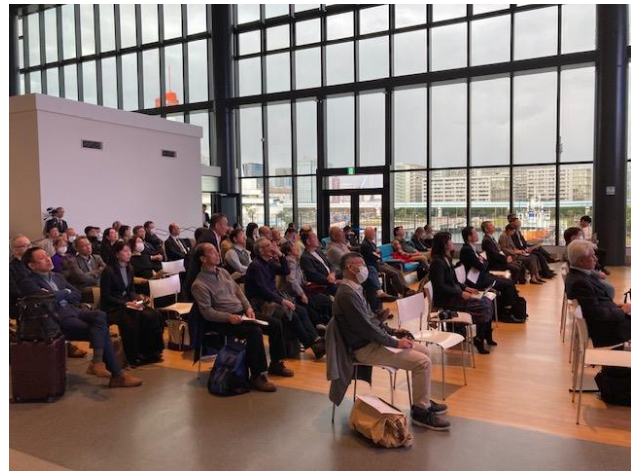
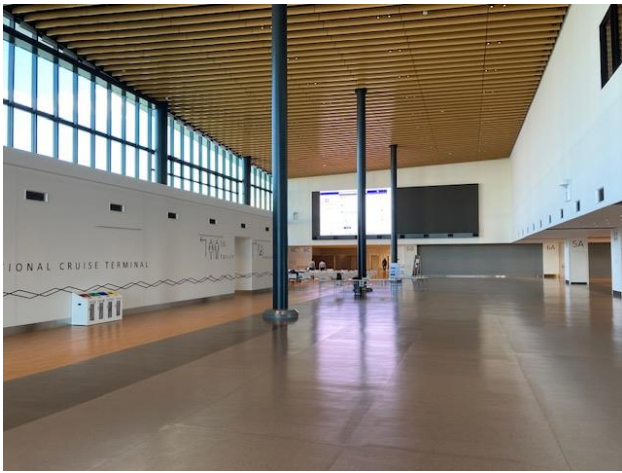
3-4 ロイヤル・カリビアン・インターナショナル(百武ミキ・ツアーリスト クルーズカンパニー長)

■セッション4 (16:00~17:30) 韓国とのクルーズ連携(司会:池田良穂)

4-1 日韓を結ぶPanstarの新クルーズフェリーの概要と戦略 パンスター会長 キム・ヒョンギョム

4-2 韓国のクルーズの現状 京畿大学校観光経営学科教授 姜淑瑛 Kang, Sook Young





講演会終了後、竹芝栈橋の客船ターミナル内のレストラン「ハーバー」で懇親会が開催されました。定員が40名だったため、参加をお断りせざるをえない方もでてしまいました。申し訳ないことでした。

懇親会後に、筆者は東海汽船の「さるびあ丸」で伊豆諸島まで行き、「フェリーあぜりあ」に乗り換えて下田に上陸という船旅を予定していましたが、強風で伊豆の海は波高6mの予想もでて、「フェリーあぜりあ」の欠航が決まり、「さるびあ丸」も伊豆大島以降の伊豆諸島への寄港は天候次第とのことでした。

今回の東海汽船の乗船は諦めて、羽田空港に駆け付け、関空行の最終便のぎりぎりに到着してチェックインすることができました。しかし、荒天による機材到着遅延が続き、待合室で待てど暮らせど乗機案内はなく、羽田を飛び立ったのは2時間近く遅れて23時頃で、関西空港に到着したのは深夜0時。鉄道もバスもなくなっており、しかたがなくタクシーで堺まで帰宅しました。

ちなみに柴田会員は、予定通り、東海汽船に乗船したとのことでの下記のレポートをいただきました。このレポートを読ませていただき、予定を変更して伊豆大島往復をすればよかったと後悔しました!!

■名古屋の柴田です。

先日の総会講演会は多彩な講師から最新情報を伺えて参考になると共に皆様に会う事ができてとても良かったです。本当にありがとうございました。

さるびあ丸には結局一人寂しく乗船しましたが、東京港と横浜港の素晴らしい夜景が見え、クルーズ船に乗っているような気分を味わえました。久しぶりの雑魚寝スタイルの2等和室は新鮮に感じ、とても価値ある運賃4,470円でした。

18日便のさるびあ丸は利島を抜港し、神津島まで行き、復路は式根島、新島、利島を抜港し大島に戻ってきたようです。(強風のため大島の元町港には着岸できず、岡田港に着岸)

大島ではレンタルバイクを4時間利用して島内観光をしました。周遊道路を1周すると約45キロですが、レンタルバイクを利用して島内を80キロ走り回り、大島の絶景を楽しめました。

帰路はセブンアイランド結に乗船し、予定通りの行程で帰ってくることができました。